

講義名	基礎心理学			授業形態	
担当教員	福田 哲也	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

### 主題と概要

心理学は、人の心の働きや心に関わる現象を科学的に検討する学問である。そして心理学の領域は非常に多岐にわたる。この授業では、心理学の様々な領域の中でも心理学史、神経・生理心理学、知覚心理学、認知心理学、学習心理学について概観する。それらを通して、心理学に関する基礎知識や考え方、人の心の特徴を理解する事を目的とする。

本講義の名称は基礎心理学であるが、「基礎」という言葉が指す内容は「心理学の初級内容」というものではなく、「人の心の基礎的なメカニズムに関する領域」というものである。その中でも本講義では、人の心の生物学的基盤と考えられる脳の構造やその機能、外界から人が情報を取り入れる仕組み（眼の構造や耳の構造など）、取り入れた情報を処理する際のメカニズムなどを概観する（詳細は授業計画を確認すること）。

### 到達目標

- 脳と心の関係について説明できる。
- 人の情報処理過程について説明できる。
- 学習による行動変容について説明できる。

### 提出課題

各授業回でリアクションペーパーの提出を求める。記載内容は、授業に対するコメントや質問等である。なおリアクションペーパーの提出は成績評価とは独立したものである。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

### 評価の基準

- 授業内確認テストにより総合的に評価する。
  - 授業内確認テストは中間テストと最終テストの2回実施する。
- 注意点
- (a) 本授業の成績評価は上記のみに基づく。特定個人への追加課題や再テストなど、受講生の公平性を欠くような対応は断じて行わない。
  - (b) 成績評価の対象者は、授業の欠席回数か総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学則第16条に準ずる）。授業全体で出席回数が一定満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。
  - (c) 上記(b)の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を「放棄」とする。

### 履修にあたっての注意・助言他

- 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
- 心理学という学問をより理解する上では、心理学概論の受講を推奨する。
- 認定心理士の資格取得を希望する場合は、単位取得が必要な科目である。
- 公的な大会や行事、思ひきなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席理由に正当性が認められない場合は除く）。
- 本授業では、初學者がイメージしやすい心理学の内容（対人関係や社会的行動、カウンセリングなど）はほぼ扱わない。それらに関する講義を望む場合は、人間社会学部専門基礎科目の心理学概論や心理学学専攻科目の社会心理学の履修を推奨する。

### 教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

### 参考図書

.心理学 新版。	黒藤 隆・森 敬昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治	有斐閣	4620	9784641053861
.心理学・入門：心理学はこんなに面白い 改訂版。	サトウ タツヤ・深津 芳之	有斐閣	2090	9784641221383
.はじめて出会う心理学（第3版）.	長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行	有斐閣	2200	9784641221451

### その他

各回で資料を配布する。

### 授業計画

- オリエンテーション：科学としての心理学  
 予習・復習  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
- 心理学の歴史  
 予習・復習  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 心と脳：脳の構造  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 心と脳：脳の信号  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 行動の生物学的基礎  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 感覚と知覚：感覚の仕組み  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 感覚と知覚：注意・さまざまな知覚  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 授業前半の振り返り  
 予習・復習  
 ・これまでの授業資料やノートを確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（120分）  
 ・授業内確認テストにおいてできなかった箇所を確認し、該当箇所を理解しておくこと（120分）
- 記憶：記憶の過程、短期記憶・長期記憶  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 記憶：忘却・日常生活における記憶  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 学習：学習の基盤  
 ・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）  
 ・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）  
 ・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）
- 学習：様々な学習

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- 心理社会学科共通ディプロマ・ポリシー  
 (1) 社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。  
 人の心理プロセスや原理、行動メカニズムを学ぶことは、社会に生きる人々の心理を理解することであるため、本授業はこのディプロマ・ポリシー達成のために必要な知識の習得および理解に貢献することができる。
- (2) 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身に付け、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。  
 本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、自授業では、実際に行われた研究についてその方法も含め説明を行う。またディプロマ・ポリシーに挙げられている社会共創活動・ビジネス・援助にたいしれも人が関わっているため、人の心理の理解に携わる本授業は、このディプロマ・ポリシーの達成に貢献できる。
- 心理社会学科 社会・文化コースディプロマ・ポリシー  
 (1) 社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。  
 本授業は人の心理プロセスや原理、行動メカニズムを学ぶものであり、社会や生活、文化を支える、または生み出す人の心理的なメカニズムを理解することと同義である。そのため、本授業はこのディプロマ・ポリシーの達成に貢献できる。
- (2) 社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。  
 本授業は人の心理プロセスや原理、行動メカニズムを学ぶものである。それは人々の考え方を理解するうえで役立つ。そしてこれらを理解することは社会の中で人と関わるための力や人にとってよりよい社会を生み出すことにもつながりうる。そのため、本授業はこのディプロマ・ポリシーの達成に貢献できる。
- 心理社会学科 心理コースディプロマ・ポリシー  
 (1) 人間の精神機能と心理学の研究方法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。  
 人の心理プロセスや原理、行動メカニズムを学ぶことは、このディプロマ・ポリシーに挙げられた「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識」の習得と同義であるため、各自目標の達成はこのディプロマ・ポリ

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

### 備考

・授業ではLMS（学習支援システム）であるCampus-Xsを用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。